

## 危ない会社の見分け方

### 第4回 危ない会社を見分けるアプローチ

#### 1. 情報の収集は複眼で

危ない会社といっても、それを見分けるのは外部からは大変難しく、いろいろな情報を組み合わせて判断することになります。

従ってリスクが比較的高い融資先や販売先については、情報を得るルートを確認し、自分の足と関係先を使った意識的な情報収集が必要です。

それらにより得た兆候を組み合わせることにより確証性を高めて対応して行くことになります。構造的に問題のあるからといって全て危ない会社というわけではありません。

さらにいくつかの項目をチェックして、危ない会社と言える兆候が見られたら注意レベルを上げていくことが必要になります。

例えば、構造的に問題のある会社について、同業者から「最近支払いが遅れている」という話を仕入先から聞いたよ」、従業員から「今年は賞与が大幅に減ってしまった」というような話が聞こえ出すと、注意レベルを上げて行かねばなりません。

情報入手経路について下表にあげておきます。危ない会社がクリアにわかるわけではありませんので、日常かつ地道な複眼的情報入手が必要です。アンテナの数と高さが要求されます。そうしませんとある日突然という目にあってしまいます。

筆者も金融機関時代に入行3年目で、ある日突然担当先のジャガイモ澱粉製造会社が会社更生法の申請を行ったとの発表をテレビのニュースで知り、動転した覚えがあります。

#### 2. 情報入手ルートと事例

一般的な情報入手ルートと澱粉製造会社の実際の情報入手状況は下表の通りです。澱粉製造会社の場合は、取引が出先機関で、本社と工場が遠隔地であったため、基本行動ができていなかった典型です。

情報ルート	情報内容	澱粉製造会社のケース
構造的に危ない会社をチェックしておく	第3回で述べた通り、業界そのものが不況業種であったり、環境変化に弱い体質であったりする場合があります。	でんぷんは斜陽産業だが、地元にとっては必需産業であるため、自治体の支援があるとの判断があった。
日常の営業訪問の中で面談・観察を行う	営業担当者は日常的に取引先を訪問しますが、その際に会社の様子や、気になったことについて説明を受けておくことです。特に工場や倉庫は時々見学を持つことが大切です。	工場はジャガイモ生産地の近くで、遠隔地にあったため視察したことがなかった。
財務諸表を入手できる場合は、財務分析により課題を把握する	問題点は何か？趨勢的に良い方向に向かっているのか、悪い方向に向かっているのかを把握することがポイントです。併せて、興信所情報も入手したいです。	財務諸表は粉飾されていて、3種類をくらい作成して相手先ごとに提出していたと関係者から後で知らされた。
業界団体、同業	業界団体や同業者などは業界のことに精	同業者は危ない会社であると

者などから情報を得る	通しているため、確度の高い情報が得られます。	知っていたようだが、情報入手ルートがなかった
販売先から情報を得る	販売先は会社が扱う商品・サービスの価値を一番知っています。	販売額の半数以上が大手商社であったので安心してた。
仕入れ先から情報を得る	仕入先は商品や原材料を販売していますので、その支払い状況をよく知っています。簡単には情報を出しませんので、日常的な関係を築いておく必要があります。	仕入先は個別農家であったので、会社の状況は聞き取れていなかった。
従業員から情報を得る	従業員の給与や賞与の支給状況などでその会社の景況がわかります。	出先は資金調達が主で、社員は少なく、経理役員以外の情報が得られていなかった。
近隣から情報を得る	近隣の人や会社は毎日その会社の様子をみていますので、変化には敏感です。	本社・工場が遠隔地にあったため、情報はなかった。
メイン銀行の姿勢	企業はメイン銀行にだけは実態を話しているケースが少なくなく、メイン銀行がどのような融資姿勢であるか注意してみることが必要です。	地元のメイン銀行は実態を知っていたようだが、地元銀行であることから撤退がむずかしかったようである。
興信所	取引額が大きい場合は、定期的に興信所情報を入手したい。特に、財務諸表を入手が出来ない場合は必須となる。	金融機関の場合興信所情報を定期的に入手することは特別な場合を除きありませんので、入手していませんでした。

上記のように事例の場合でも、もう一つ二つ情報を得ていれば、突然倒産というようなことは無く、何らかの手を打てる可能性はありました。融資は手形割引であったため、大半を回収し、大きな損失にはなりませんでした。（次回に続く）